

# 東京バッハ合唱団「月報」

[ 第 502 号 ] 2004 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732  
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3Web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.502

April 2004

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 5 月の定期演奏会 “ 野の花 空の鳥 ”

演奏曲目の紹介 ( つづき )

大村 恵美子

この月報とともに皆様におとどけするチラシは、次回公演 ( 5 月 9 日 ) のご案内です。

演奏会タイトルを “ 野の花 空の鳥 ” とした背景は、チラシ裏面をお読みください。写真は、バッハの育ったテューリンゲン地方の典型的な一風景。この道をすすむと、バッハ一族の祖、ファイト・バッハが住みついたヴェヒマルの町に至ります。

さて、2003 年 12 月号では、カンタータ第 93 番「ただ主によりたのみ」と第 99 番「神の御業こそ ことごと善けれ」を紹介しましたが、今回は、ひきつづき 2 曲のカンタータを紹介しましょう。

### カンタータ第 77 番

#### 「主を愛すべし 心のかぎり」

„Du sollt Gott, deinen Herren, lieben“ BWV77

初演:1723 年 8 月 23 日 三位一体節後第 13 日曜日、ライブツィヒ。

バッハがトーマス・カントルに着任して後 3 ヶ月の、清新な気魄で書かれた演奏時間約 15 分ほどの簡素な作品ではあるが、イエスの福音の中心的な主題を、創意をもって扱った、注目すべきカンタータとなっている。「BWV77 の冒頭合唱は、その多層性ゆえに、バッハ文献ではこの曲をもとに、まさにバッハ研究の歴史を展開できるほど、知名度が高い。」(マルティン・ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』鳴海史生訳、東京書籍、2001 年、第 巻 P.136)

スライド・トランペット ( Tromba da tirarsi ) が 1. と 6. の合唱作品で、トランペットが 5. のアルト・アリアで、それぞれ独自の重要な役割を果たし、オーボエ 2 は 3. ソプラノ・アリアのオブリガートを受けもつ。それに弦合奏と通奏低音であるが、最終コーラルはテキストの指定が省略されているなど、あわただしい上演過程を想像させる。今回は、新バッハ全集に従って、最終コーラルに D. デーニケの「おお神の子、主イエス・キリストよ」David Denicke „O Gottes Sohn, Herr Jesu Christ“(1657)の第 8 節を用いる。

### 1. 合唱 主を愛すべし 心のかぎり

おちついた対位的な合唱曲だが、じつはなかなか手の込んだ構造となっている。

まず器楽から見ると、弦楽と通奏低音のほかはスライド・トランペットのみで ( 自筆譜では Tromba da tirarsi 以外の楽器指定はない )、ルターの「こは十の戒め / 主あたまいぬ / しもべなるモーセに / シナイ山にてキリエライス」という 4 行のコーラル Martin Luther „Dies sind die heiligen zehn Gebot“(1524) が、間をおいて 1 フレーズごと吹き鳴らされる。そして 67 小節以後、曲の最後にいたって、第 1 行から第 4 行までの全容が、切れ目なしに示される。その高らかに奏されるトランペットに従うように通奏低音が、ほとんど 2 分音符あるいは全音符で、長く引き伸ばされた 1 行ごとのコーラル旋律を、こまかい動きの間奏部分をはさみながら続けてゆき、ついにトランペットがコーラル全体を示すと、第 68 小節から 10 小節にわたって、g ( 主音 ) を、持続低音として鳴らしつづけて終る。器楽全体で < 十戒 > のコーラル・ファンタジーが確立されているのである。

その上に、混声 4 部合唱が 主を愛すべし 心のかぎり……隣人 ( とわりびと ) を愛せ おのれのごとく ( ルカ 10 : 27。ただし前半は申命記 6 : 5、後半はレビ記 19 : 18 からの引用 ) と、声部ごとに整然と聖句を積み上げてゆく。心 ( Herzen )、霊 ( Seele )、力 ( Kräften )、思い ( Gemüte ) を尽くして、すなわち自己のすべてを出しきって主なる神を愛せ、と何回にもわたってくり返されたあと、全 77 小節のうち最後の 11 小節で、隣人を愛せ が現われる。

全人をもって神を愛すること、それはこの世では、日々実際に接する他人に尽くすということに他ならない。それゆえ、最後になって、簡潔に、しかも頂点を築く形で、この 隣人を愛せ が集中的に歌われるのではないだろうか。

この第 67 小節はまた 器楽部分でトランペットが < 十戒 > コーラルの全体を奏し始める瞬間と一致する。イエスは、旧約聖書において、ユダヤ教の中心的掟となっている十戒の真髓が、これもすでに旧約聖書の中に含まれている「神を愛すべし」と「隣人を愛すべし」

に要約されていることを主張した。この日の福音書章句となっている「善きサマリア人の譬え」を含む箇所（ルカ 10：25-35）では、律法学者の問い（何をしたら永遠の生命が得られるか？）に対し、イエスは、申命記とレビ記のこれらの聖句を挙げさせて、「その通りに行なえ」と答えている。この2つこそが、モーセに授かった神の十戒の中核であることを示している。

バッハは、この教えをひきついで、旧約の掟を楽器に受けもたせ、イエスの新しい要約の教えを「ことば」を用いた合唱によって、それと同時進行的に歌わせるのである。深い計画に基づいた構成と、感じ入らざるを得ない。

2. レチタティーヴォ(B) 心をただ主にのみ献ぐべし  
「神を愛すべし」に基づいた、セッコ・レチタティーヴォ。

3. アリア(S) 愛しまつる 心より主を  
2.の内容を受けて、2本のオーボエのオブリガートを伴ったソプラノが、燃え立つ愛の生き生きとした動きを歌う。

4. レチタティーヴォ(T) サマリア人の心をもて  
簡潔なセッコ・レチタティーヴォながら、有名な「善きサマリア人」の譬え話の教えを、たくみに要約する。

5. アリア(A) ああ わが愛いかに脆く弱き  
トランペットが、アルトと同等に歌いかつ躍動する余り多くない例である。しかもアルトは、自らの愛の非力と不完全さを訴え、トランペットも憂愁を帯びているが、にもかかわらず、その音色の輝きは、弱い人間に対する神の支えと励ましを思わせる。

6. コラール 主 わが内にあり  
冒頭に述べたとおり、バッハ自身の歌詞の指定がなく、旋律は「ああ神よ、天より見みそなわし」Martin Luther „Ach Gott, vom Himmel sieh darein“(1524)。私たちが準拠したデーニケの歌詞のほか、以前には、同じデーニケの「もし人がすべてを理解するならば」„Wenn einer alle Ding verstünd“(1657)の第8節を用いるのが慣例となっていたようである。どちらも、隣人愛を歌って締め括ることにおいては似ているが、現行のテキストのほうがすっきりとした文脈になっているように思われる。なお、1.と6.との2曲においてルターのコラール旋律が鳴り響くのも、このカンタータを古風で重々しいものになっている。

**カンタータ第78番 「イエス わが心を」**  
„Jesu, der du meine Seele“ BWV78

初演:1724年9月10日 三位一体節後第14日曜日、ライブツィヒ。

編成:ホルン(ソプラノ補強)、フルート、オーボエ2、弦合奏と通奏低音。

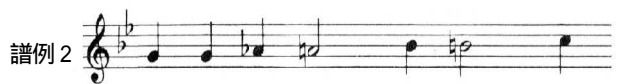
J.リスト「イエスよ、なんじはわが魂を」Johann Rist

„Jesu, der du meine Seele“(1641)に基づくコラール・カンタータ。コラール第1節を1.冒頭合唱に、最終(第12)節を7.最終コラールに用い、その間の楽曲で基本コラールの第2-11節をマドリガル風に作りかえて生かしている。

この日の福音書章句は、ルカ17:11-19の、イエスが10人のらい病人を癒した物語で、カンタータ全体にわたって、肉体の病いの癒しから、イエスによる魂の永遠の癒しへと、展開されてゆく。

イエス わが心を 救い出したまいぬ 黄泉の暗きより 重き悩みより (1.合唱)、 急ぎゆかん 弱くともたゆまず (2.S/A 二重唱)、 身にまとう 罪のけがれ (3.T レチタティーヴォ)、 弱きわが心 強めたまえや; 罪と死 われをば襲い来るとき (7.コラール) など、病める弱い肉体から解放たれて、魂を強められ、主より永久(とわ)の幸を受けよう、という福音書の筋書きの運びとなっている。「その中の1人は、自分が癒されたのを知って、大声で神を讃美しながら戻ってきた。そして、イエスの足もとにひれふして感謝した。」(ルカ17:15,16)

1. 合唱 イエス わが心を救い出したまいぬ  
16世紀以来、ヨーロッパ各地で用いられてきた<パッサカリヤ>という、同一主題の反復変奏の形式(先月号月報 No.501,p.4 参照)と、コラール変奏とを結びつけて、壮大で決然とした大合唱が立ち現われる。冒頭に通奏低音部で「g-g-fis-f-f-e-es-es-d」と半音階下行する9つの4分音符をもって開始されるパッサカリヤ主題(譜例1)は、高低の器楽声部、混声4部の各声部に縦横に36回もくり返されて終る。途中、「g-g-as-a-b-h-c」と反行(半音階上行)主題(譜例2)も加わり、そのうえ自由部分では8分音符7個ではむ動機(譜例3)、8分音符1+16分音符2という慣例の喜びの動機(譜例4)なども現われて、単純な4分音符9個のどっしりした主題を囲みながら進行する。



2. 二重唱(S/A) 急ぎゆかん 弱くともたゆまず  
バッハのカンタータ全作品のなかでも最も人気の高い曲のひとつ。通奏低音のみの、リズムカルな行進の上に、ソプラノとアルトとで、たどたどしいながら一

## 「マタイ受難曲」における、群の役割

### (2) 多層的なアプローチの準備

大村 恵美子

月報 500 号(2004 年 2 月号)で、私は、バッハの「マタイ受難曲」という大きな作品に手がかりをつける第一歩として、15 曲のアリアを中心に、話を始めてみた。それは、数年前(1995 年)にすでに提起した、演奏者の、群の役割について、独唱アリアという、主観的な内容の濃い曲から、バッハの心を探ってゆこうという意図によるものだった。

第 1 曲の冒頭合唱において、ピカンダー(Picander 筆名; Chr. Fr. Henrici, 1700-64)の台本では、合唱「シオンの娘たち」、合唱「信じる魂」ということになっているが、私はこの役割設定の神学的解釈にはあまりこだわらず、全 68 曲ある作品の中で、バッハが実際にどのように 2 つの演奏者群を使い分けたか、それを見てゆきたいと思う。

この「マタイ受難曲」アプローチのためには、やはり全体を見とおした計画が、大枠として必要であろう。私の関心のおもむくままに、アリアから始めた以上、独唱者から詳細に調べていって(第 3 回予定)、次に合唱全員で歌うコラールと大合唱(児童合唱を含む)(第 4 回予定)、そして聖書の物語の筋をはこぶ福音史家とともに、群集、弟子、祭司長、兵士ら複数の登場人物を受けもつ小合唱(第 5 回予定)にいたる。このようにして、多層的なこの作品の構造になじんでゆくことができるだろう。

次回に、その計画表を提示して、できれば、上記のように今後 3 回くらいの連載で完結させることにしたい。団員の方々も、これを読みながら、来たる 2007 年の公演では、自分が、どのうち、どちらを歌うか、よく考えて選んでおいていただきたい。それぞれにすばらしいところがあって、合唱団の半分だけで歌うのはもったいなく、つい作曲者の指定を無視して全員で歌いたくなるのだが、2007 年のときには、厳密に、を分けて演奏するつもりである。(独唱者の人数は、経済的な理由から、ソプラノ 1、アルト 1、テノール 2、バス 2 でお願いしなければならないと思っている。イエス以外のバスが同時に 2 人歌うことになる 41c. では、祭司長(バス)の 1 人を、団員の中から起用するつもりなので、このことも心がけておいていただきたい。)

次回(第 3 回)は、これまで言及してきたレチタティーヴォとアリアをのぞく独唱部分(福音史家、福音書中の人物)について考えようと思うが、ここで少し、独唱アリアの役割について、前回につけ加えて総括しておきたい。

合唱が、信徒の共同体や複数の登場人物の歌であるのに対して、独唱は、劇の要所々々に設定されて、そ

途にイエスの後を追う、足の弱い群れの病人たちを描いてゆく。

<おおイエス おお主よ>と呼びかけながら、ついに振り向いてくださったイエスの顔を仰ぐ至福。この混じり気のない歌が、いちど聞いたら心を捉えて一生離さない。

#### 3. レチタティーヴォ(T) ああ われ罪の子なり

長く切々たる訴えで、基本コラール第 1-5 節の断片を挿入し、最後 責めたまわされ 弱きわが業(わざ)を、で、アリオゾ風に通奏低音が 8 分音符を刻んで歩き出す。

#### 4. アリア(T) 罪をめぐう なが血は

フルートの軽いスタッカートとともに、イエスの贖いによる解放、暗い力に対する勝利を歌う。

#### 5. レチタティーヴォ(B) み傷 いばら 葬り あざけり

これも 3. に劣らず、長く入念に展開するレチタティーヴォで、テンポも何度か変化させて、劇的に、十字架のイエスに依りたのむ心を披瀝する。悩めるわが心を(第 17 小節、アンダンテ)以下は、基本コラール第 10 節からの引用である。

#### 6. アリア(B) わが心をしずめ

1. 合唱の決然たる趣きをとりにどし、オーボエ助奏の、活発に上下行する旋律と競合しながら、依りたのむ主イエスへの全面的な信頼を確立させる。

#### 7. コラール 弱きわが心 強めたまえや

基本コラール第 12(最終)節を、力強く歌う。この世における、悩み多く、弱い心身に妨げられる人生が、戦い終りて とわの幸を受け る希望へと高められ、きよめられる。深い感動をかならずや引き起こして止まないカンタータである。

戸田敏子先生(団友)からのお励まし

戸田敏子先生は、合唱団発足以来、長い間アルトの独唱で定期演奏会にご出演くださいました。

また私どものバザーへも度々、長期間にわたって高価なご献品のご協力をつづけてくださっておりますが、このたびは多額のご寄付をいただきました。

「いい思い出がたくさんあって、今も毎月の月報をたのしみに読ませていただいています」とおっしゃいます。一筆箋で添えられた先生のお言葉、私ひとりでお納めしておくのはもったいないので、皆様にお伝えします。

(大村恵美子)

戸田敏子先生へ  
何事も心で応援しています  
戸田敏子

ここに立ち会う個人の魂の内面的な情緒を吐露する内容をもっている。

大きく2分して、劇の進展につれて動く主イエスの姿を凝視し、それに激しく反応する心(6. 27a. 30.

49. の計4曲)。および、意志、または命令形の動詞をもって、現実の行動をうながす動的な呼びかけ(をのぞく11曲)となり、下表のとおりである。

(つづく)

「マタイ受難曲」アリアの二面

イエスの姿に激しく反応する心

曲番号	群・声部	内容	訳詞
Nr. 6	・ A	Buß und Reu knirscht das Sündenherz entzwei	悔いは 罪の心 引き裂く
Nr. 27a	I・S A	So ist mein Jesus nun gefangen	わがイエスは 捕らわる
Nr. 30	・ A	Ach, nun ist mein Jesus hin	ああ 今や わがイエス 去りぬ
Nr. 49	I・S	Aus Liebe will mein Heiland sterben	愛により わが主 死におもむく

動的な呼びかけ(意志・命令形)

Nr. 8	・ S	Blute nur, du liebes Herz!	破れよ[血を流せ] 心よ
Nr. 13	・ S	Ich will dir mein Herz schenken	主に 心ささぐ
Nr. 20	・ T	Ich will bei meinem Jesu wachen	目覚めおらん イエスのもと
Nr. 23	・ B	Gerne will ich mich bequemen	勇みて 従いゆかん
Nr. 35	・ T	Geduld, geduld!	耐えよ 耐えよ
Nr. 39	・ A	Erbarme dich, mein Gott	憐れみを[たまえ] 主よ
Nr. 42	・ B	Gebt mir meinen Jesum wieder!	返せ ふたたび わがイエスを
Nr. 52	・ A	O, so nehmt mein Herz hinein!	わが心 奪え
Nr. 57	・ B	Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen	来たれ 甘き十字架よ, [と言おう]
Nr. 60	・ A	Sehet, Jesus hat die Hand, uns zu fassen, ausgedehnt	見よ イエス み手を 差し伸べたもう
Nr. 65	・ B	Mache dich, mein Herze, rein	きよめよ わが心

「マタイ受難曲」全体のなかの独唱アリアの配置

(R=レチタティーヴォ, Ar=アリア, R-Ar=レチタティーヴォ-アリアのセット)

第1部	Nr.	1	3	5-6	8	10	12-13	15	17	19-20	22-23	25	27a-b	29	(CH=大合唱曲, ch=コーラル, TR=テノール語り)						
		CH	ch	R-Ar	Ar	ch	R-Ar	ch	ch	R-Ar	R-Ar	ch	Ar	CH							
				A	S		S			T	B		S/A		( =第1群, =第2群, S,A,T,B=独唱声部)						
第2部	Nr.	30	32	34-35	37	39	40	42	44	46	48-49	50	51-52	54	56-57	58	59-60	62	64-65	66	67-68
		Ar	ch	R-Ar	ch	Ar	ch	Ar	ch	ch	R-Ar	TR	R-Ar	ch	R-Ar	TR	R-Ar	ch	R-Ar	TR	R-CH
		A		T		A		B			S		A		B		A		B		S/A/T/B

東京バツ八合唱団 夏期特別演奏会 予告

ことしの世田谷中央教会(桜新町) 神山教会(長野県野尻湖畔)の2つの特別演奏会は、それぞれソプラノの光野孝子さん・アルトの佐々木まり子さんをお迎えして、豪華なプログラムをお楽しみいただきます。詳細は追ってご案内いたします。

世田谷中央教会, 7月31日(土)

- ・ソプラノ・アリア<主を仰ぎのぞみ>(BWV93より)
- ・同<愛しまつる 心より主を>(BWV77より)
- ・カンタータ BWV93, BWV77, BWV78 の合唱部分

独唱: 光野孝子(ソプラノ), ピアノ: 内山亜希  
東京バツ八合唱団, 指揮: 橋本眞行, 大村恵美子

野尻湖神山教会, 8月7日(土)

- ・ソロ・カンタータ BWV 35 「心は乱れ 惑う」
- ・ソロ・カンタータ BWV 170 「うれしき 心の平和」
- ・カンタータ BWV78 の合唱部分

独唱: 佐々木まり子(アルト), ピアノ: 内山亜希  
東京バツ八合唱団, 指揮: 大村恵美子, 橋本眞行